

令和3年2月定例県議会の概要について

概 要

「一般質問」での教育委員会関係の主な質疑応答

山下 博史 議員

◇教育行政について

(1) 本県における全国最下位の教員採用試験倍率に対する認識と、採用試験の受験者を増加させるために、どのような対策を考えているか伺いたい。

(教育長答弁)

令和2年度教員採用選考試験の小学校における採用倍率が全国最下位の1.4倍であったことは大きな問題であると受け止めております。これは、大量退職に伴い採用者数が増加する一方、教職へのマイナスイメージによる不安などを背景に受験者数が減少していることが要因であると分析をしております。

そこで、県教育委員会としましては、受験者の増加を図るため、若手教員による大学等での講話など教職の魅力を発信する広報活動を強化してまいります。また大学からの推薦制度の導入や、受験年齢制限の緩和など、様々な対策を検討しているところです。

さらに、他県等で現に勤務している小学校の正式採用教員を対象に関東会場での試験を実施していましたが、次年度は対象を中学校にも拡大するとともに、関東会場に加え、関西会場での試験も実施していきたいと考えております。

(2) 若手教員の研修をどのように実施していくか伺いたい。

(教育長答弁)

小中学校教員の大量採用が続く中、若手教員の育成は、本県教育の喫緊の課題であります。このため、県教育委員会では、平成30年度から、若手教員に対する研修体制の抜本的な見直しを行い、従来、初任者と10年研修者に集中していた内容を、切れ目無く平準化し、系統的に学び続けることができるよう、再構築いたしました。

また、「教員は学校で育つ」をキーワードに、学校現場で先輩教員との対話を通して、日常的に研修を深めるメンター研修の制度を導入したことにより、若手教員からは、「先輩とのかかわりの中で実践的な指導技術を学ぶことができた」というような声が届いております。

今後も、5年先、10年先の本県教育の充実を見据え、若手教員の指導力育成に努めてまいります。